

6章 仕事に対する意識と子育て参加頻度との関係

1. 仕事の状況

(1) 仕事の状況

父親の仕事に対する意識として、仕事の状況、仕事への関与意識、仕事の意味や仕事観などをたずねた。仕事の状況に関する主な4項目として、1. 仕事の負担が重く、常に時間に追われている、2. 責任の重い仕事である、3. 心身共に負担の多い仕事である、4. 上司からふさわしい評価を受けている、をたずね、「全くそうでない」～「かなりそうである」の5段階で回答を求めた。

(2) 仕事の状況と子育て頻度との関係

① 未就学児

仕事の負担が重く、常に時間に追われているという意識と、未就学児に対する子育て頻度（子どもの食事の世話）を図6-1に示す。仕事の負担が重く、常に時間に追われていると思う人ほど子どもの食事の世話をする頻度は少なく、そう思わない人ほど頻度が多い。この結果から父親の仕事の重い負担や時間に追われているという意識が、子育て参加を少なくしていることが見受けられる。他では、子どもと一緒に食事をする、子どもの着替えや身支度をする、遊び相手になる、子どもと一緒にお風呂に入る、おむつやトイレの世話に同様の傾向が見られた。本の読み聞かせ（図6-2）も同様の傾向であるが、週3-4回が多い。

図6-1 仕事の負担が重く常に時間に追われている意識と子どもの食事の世話をする頻度とのクロス集計

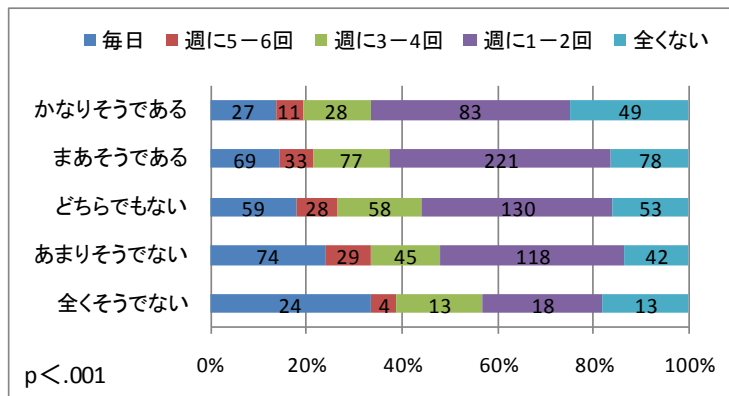
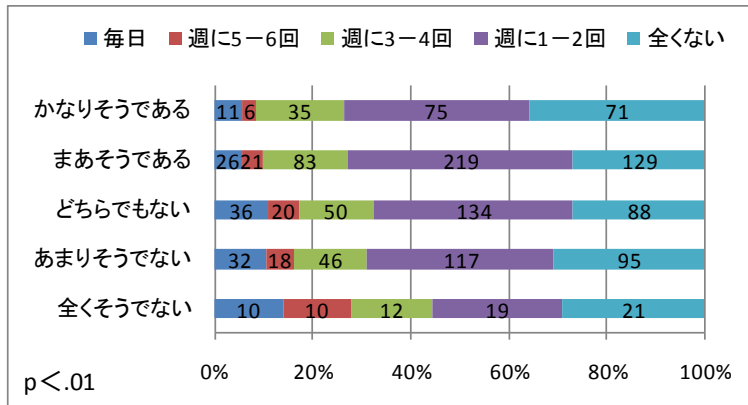


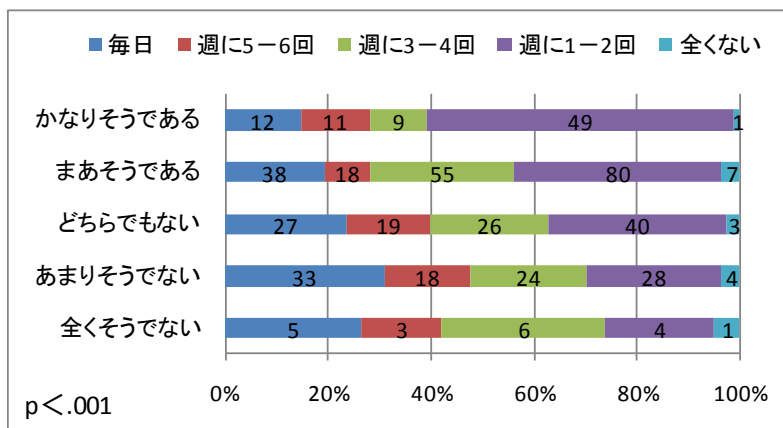
図 6-2 仕事の負担が重く常に時間に追われている意識と本の読み聞かせの頻度とのクロス集計



②小学生以上

父親の仕事の負担が重く、常に時間に追われているという意識と子どもと家で一緒に遊ぶ頻度との結果を図 6-3 に示す。仕事の負担が重く、常に時間に追われていると思う父親ほど子どもと家で遊ぶ頻度は少なく、そう思わない人ほど頻度が多い。この結果から父親の仕事の重い負担や時間に追われているという意識が、子どもとの遊ぶ機会を少なくしていることが見受けられる。子どもと夕食をとる頻度にも同様の傾向が見られ、他には統計的に有意な結果は見られなかった。

図 6-3 仕事の負担が重く常に時間に追われている意識と子どもと夕食をとる頻度とのクロス集計



③他の項目

責任の重い仕事である、心身共に負担の多い仕事である、という二つの項目は、上記の父親の仕事の負担が重く、常に時間に追われているという意識とほぼ同様の結果であった。一方、上司からふさわしい評価を受けているという意識は、父親の子育て頻度との関係において、はっきりとした傾向は見られなかった。

2. 仕事への関与意識

仕事への関与意識に関する主な項目は、1. 仕事で成功するためならどんな努力でもする、2. 仕事の成功よりも家族の方が大切である、3. 自分の仕事や会社に尽くそうという気持ちが人一倍強

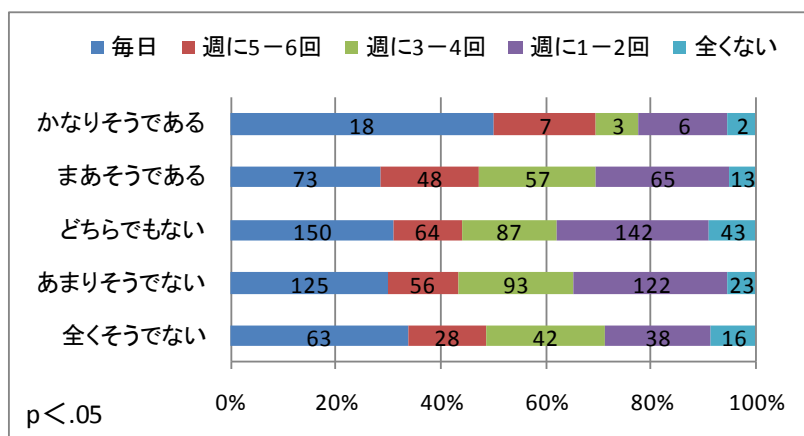
い、などの3項目である。これらに対し、「全くそうでない」～「かなりそうである」の5段階で回答を求めた。

(1) 仕事への関与意識「仕事で成功するためならどんな努力でもする」と子育て頻度との関係

① 未就学児

仕事で成功するためならどんな努力でもするという意識と、未就学児に対する子育て頻度（子どもと一緒に食事をする）との集計結果を図6-4に示す。仕事で成功するためならどんな努力でもするという意識と未就学児の子どもと一緒に食事をする頻度には、一貫した傾向は見られない。この結果から、仕事志向の強さは、父親の子育て頻度とはあまり関係がないことがうかがえる。他では、子どもの遊び相手になる、子どもと一緒に風呂に入るなども同様の傾向が見られた。

図6-4 仕事で成功するためならどんな努力でもするという意識と子どもと食事をする頻度とのクロス集計



② 小学生以上

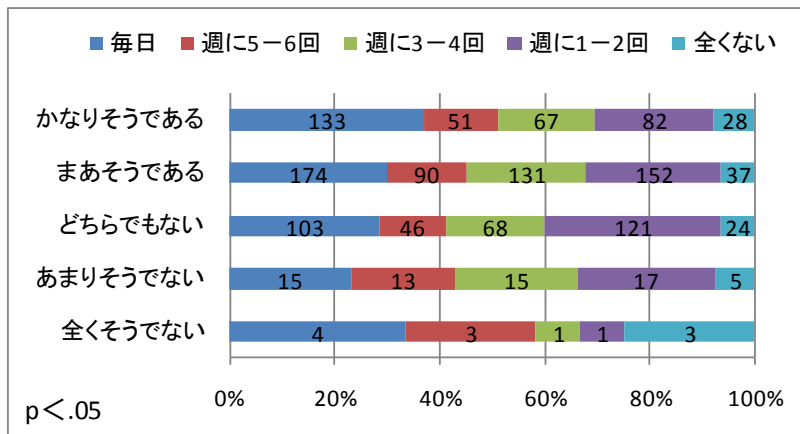
仕事で成功するためならどんな努力でもするという意識と小学生以上の子育て頻度との間には有意な関係が見られなかった。この結果から、未就学児の場合と同じように、仕事志向の強さは、父親の子育て頻度とはあまり関係がないことが考えられる。このことから仕事と家族とのかかわりは相反するものではなく、両立しうるものであることがいえるのではないだろうか。

(2) 仕事への関与意識「仕事の成功よりも家族の方が大切である」と子育て頻度との関係

① 未就学児

仕事の成功よりも家族の方が大切であるという意識と、未就学児に対する子育て頻度（子どもと一緒に食事をする）との集計結果を図6-5に示す。概ね仕事の成功よりも家族の方が大切であるという意識が強いほど、子どもと一緒に食事をする頻度が多いことが明らかになった。この結果から、家庭志向の強いほど、父親としての子育て頻度も多くなることがうかがえる。他では、子どもの着替えや身支度の世話をする、子どもの遊び相手になる、子どもと一緒に風呂に入る、おむつやトイレの世話、本の読み聞かせなども同様の傾向が見られた。

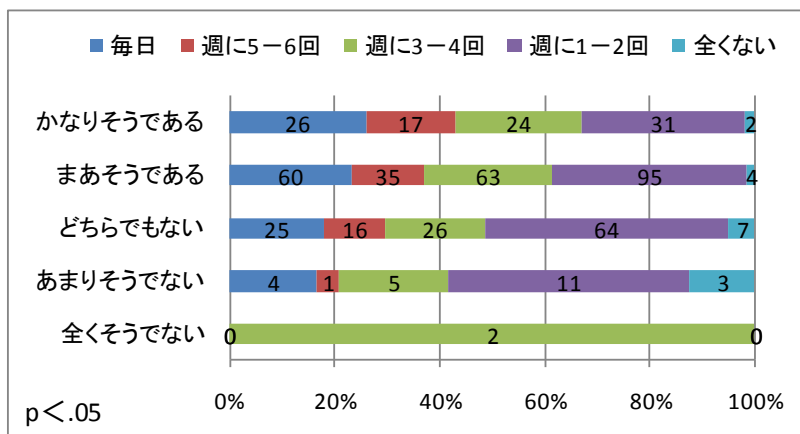
図 6-5 仕事の成功よりも家族の方が大切であるという意識と子どもと食事をする頻度とのクロス集計



②小学生以上

小学生以上の子どもと夕食をとる頻度について、仕事の成功よりも家族の方が大切であるという意識との集計結果を図 6-6 に示す。仕事の成功よりも家族の方が大切であると思うほど、子どもと夕食をとる回数が多いことが明らかになった。反対に、仕事の成功より家族の方が大切であると思わないほど、子どもと夕食をとる回数は少ない。他では、子どもとの会話、勉強や習い事の面倒をみることなどが同様の結果であった。

図 6-6 仕事の成功よりも家族の方が大切という意識と子どもと夕食をとる頻度とのクロス集計



3. 仕事の意味や仕事観

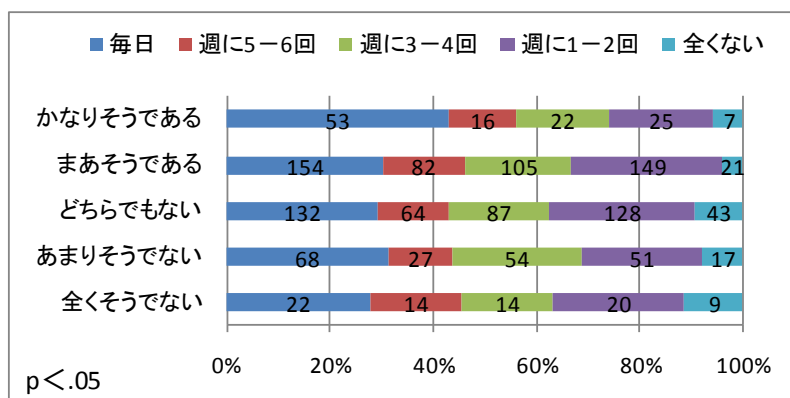
仕事の意味や仕事観に関する主な項目は、1. 私の仕事はやりがいのある仕事だと思う、2. 今の仕事に私は適している、3. 仕事のために生活が犠牲になるのはやむをえない、などの 3 項目である。これらに対し、「全くそうでない」～「かなりそうである」の 5 段階で回答を求めた。

(1) 仕事の意味「私の仕事はやりがいのある仕事だと思う」と子育て頻度との関係

① 未就学児

私の仕事はやりがいのある仕事だと思うことと、未就学児に対する子育て頻度（子どもと一緒に食事をする）との集計結果を図 6-7 に示す。自分の仕事はやりがいのある仕事だと思うことと、子どもと一緒に食事をする頻度との間には一貫した傾向は見られない。この結果から、仕事のやりがいと、父親の子育て頻度とはあまり関係がないことがうかがえる。他では、子どもの着替え、遊び相手、おむつやトイレの世話、本の読み聞かせなども同様の傾向が見られた。

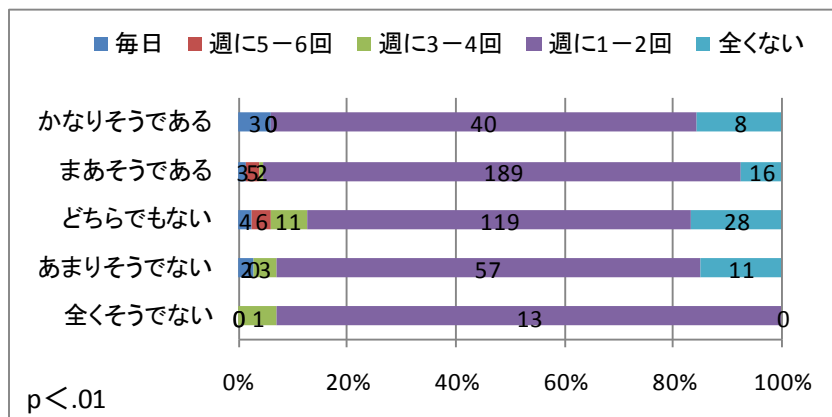
図 6-7 仕事で成功するためならどんな努力でもする意識と子どもと食事をする頻度とのクロス集計



② 小学生以上

私の仕事はやりがいのある仕事だと思うことと、（子どもと一緒に食事をする）との集計結果を図 6-8 に示す。自分の仕事はやりがいのある仕事だと思うことと、子どもと一緒に外で遊ぶ頻度との間には一貫した傾向は見られず、ほとんどの父親が週に 1-2 回という回答であった。この結果から、仕事のやりがいと父親の子育て頻度とはあまり関係がないことが明らかになった。

図 6-8 私の仕事はやりがいのある仕事だと思うことと子どもと外で遊ぶ頻度

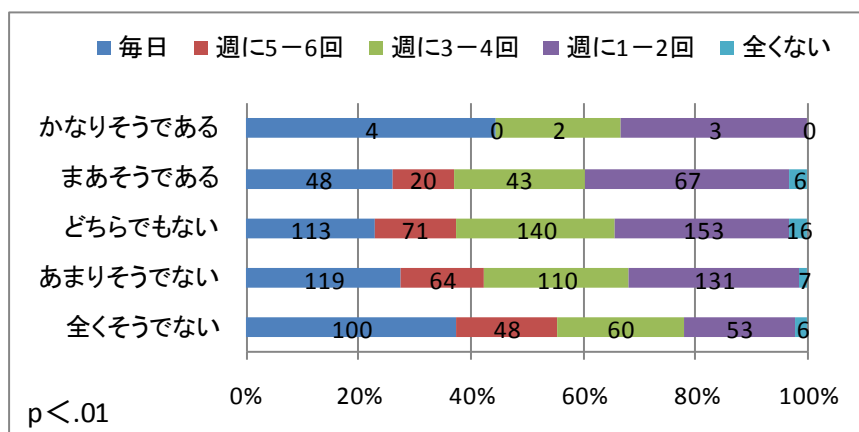


(2) 仕事観「仕事のために生活が犠牲になるのはやむを得ない」と子育て頻度との関係

① 未就学児

仕事のために生活が犠牲になるのはやむを得ないと思うことと、未就学児に対する子育て頻度（子どもの遊び相手になる）との集計結果を図 6-9 に示す。仕事のために生活が犠牲になるのはやむを得ないと思うほど、子どもの遊び相手をする頻度は少なく、そう思わないほど遊び相手をする頻度は多い。この結果から、仕事のために生活を犠牲にするという仕事時間を重視する意識が、子育てに参加を制約することが考えられた。他では、子どもの着替え、身支度の世話にも同様の傾向が見られた。

図 6-9 仕事のために生活が犠牲になるのはやむを得ない意識と子どもの遊び相手をする頻度とのクロス集計



②小学生以上

仕事のために生活が犠牲になるのはやむを得ないと思うことと、子どもの宿題や習い事の面倒をみる頻度との集計結果を図 6-10 に示す。仕事のために生活が犠牲になるのはやむを得ないと思うことと、子どもの宿題や習い事の面倒をみる頻度には、一貫した傾向が見られず、いずれも週1-2回という回答が多かった。子どもと外で遊ぶことについても同様の傾向が見られた。

図 6-10 仕事のために生活が犠牲になるのはやむを得ない意識と子どもの宿題などをみる頻度とのクロス集計

